

ボランティア活動グループ訪問記

木もれびの森の一角で保活活動する  
「ここももの会」

立春を過ぎたとは言えまだまだ寒い2月15日(水)、相模原SDGsパートナーに登録、さがみはら地球温暖化対策協議会の会員でもあるボランティアグループ、木もれびの森の花と木々を守る会、愛称「ここももの会」の代表の杉山信義さん、活動副部長の内間由美さんのお二人にお話しを伺った。今回活動口では取材に答える事が難しいと言いつつ、活動口ではない今日、実際に会の活動場所である森で、伐採された立ち枯れ木の切り株で作られた椅子に腰をおろして会の成り立ちなどを聞いたあと森の中を案内していただいた。実際の活動の様子は後日お願

いした。実際の活動の様子は後日お願

\*会の設立は…2020年4月です。

\*「ここももの会」の名称について…正式名称は「木もれびの森の花と木々を守る会」だがこれでは長くて大変なので、あれこれ考えた末の愛称です。

かわいい名前ですね。  
\*会員数は…19名



杉山さん(右)と内間由美さん(左)



スコップ、チェーンソーなど道具の数々とここもものロゴマーク付きヘルメット

\*どんな活動を行っていますか…木もれびの森の一角で森の保全活動をしています。生物多様性の高い持続可能な温暖化対策として有効な森林作りを目指しています。一般市民を対象とした森の散策や体験講座の開催、また、市・公民館・自治会のイベント参加など自然保護普及啓発活動にも取り組んでいます。活動日は毎月第2・4水曜日。チェーンソー、刈払機、ノコギリ、手鎌などを使用して作業を行います。

杉山さんと内間さんはチェーンソー、刈払機を使っために講習を受け資格を取得しているそうです。

森の中を案内していただく。通路脇には伐採された木の幹、枝が寄せられている。落ち葉がつもったままの地面はふかふかであたたかい。アスファルトの道路に慣れている足にはとても気持ちが良い。この木の幹、枝、落ち葉が月日を経て朽ちる。それが栄養となり森の花や木々を育てる。敢えて撤去せずに置くと言う。ちょっと残念なことがあった。以前、幹や枝で囲いを作り、ごんべり、マニマなどの若木を植えた場所が跡形もなく取り払われていた。「せっかく植えたのに、なぜこんな事を」と肩を落としていらした。

翌週2月22日(水)、会の活動口におたたび伺った。会員の男性4人、女性5人、相模ボランティア(正式名称、相模原市市民活動中間支援施設連絡会)より青山学院大学「コミュニケーション人間科学部1年生小鮎巧美さん



青山学院大学生の小鮎さん(右)と三木さん(左)



木を伐採するために、木の周りの下草を刈り、倒す方向を決め、木に切り込みを入れて!



(植野) 小山

三木卓さんが会のPR動画作成のため参加されていた。私達2人の計13名。全員ヘルメットを装着する。皆さんでミーティング、今日の活動予定は立ち枯れ木の伐採と本。道具を持ち対象となる木の元へ移動。木の回りの下草刈りをする。アスマネザサがほとんどで根が張っているため刈るのもなかなか大変だった。木を倒す方向を決め、ロープをかけ、チェーンソーで切っていく。切る人の声がかかると、皆でロープを引く。セーノ、ヨイショッ、セーノ、ヨイショッと声をかけ合う。バリバリバリ、ドッシーンと木が倒れる。すごい声だった。切る人、引っ張る人お互いに声をかけ合い安全に気をつけて行う。私達も充分間隔を空けて。この日は計3本の木を伐採した。倒された木の根元は下草が刈られ、太陽の光が地面まで届く。この跡に花が咲いたり、ドングリの木などが芽を出すかも知れませんがねと話してくれた。

森を守り育てる活動ですね。相模原にこうした森が沢山残って欲しいと思いました。

\*ここももの会 代表 杉山信義  
〒252-0231  
相模原市中央区相模原4-3-20-1404  
電話 090-9954-0190